

7. 教育センター

教育センターの目的は、卒前教育、卒後教育、生涯学習の連続性の中で、大学、附属病院を横断する教育活動を支援・実施することである。7月1日からは、鏡視下トレーニング室関係業務が病院管理課より移管がなされた。

平成19年度の本センター活動については、大学の基本方針、運営計画に基く活動として下記事業を実施した。

1) 医療安全管理の推進においては、医療の安全教育ワークショップを平成19年度には、本院4回(384名)、青戸病院2回(136名)、第三病院2回(175名)、柏病院2回(165名)合計10回、860名の参加を得て、参加者の感想文を分析して理事会等へ報告を行なった。また、本学へ派遣されている社員の参加も可能として、19年度は4名の参加があった。

また、本センターが主管しているテレビ会議運営委員会主導のもと、テレビ会議システムを利用して、4附属病院を繋いで、テレビ会議にて4病院リスクマネジメントを年2回(7月、3月)支援した。

2) 人材育成システムの構築については、教員評価委員会(渡邊 直熙委員長)と連携し当センターが主管している教員評価データベース委員会(福島 統委員長)において、データベース開発を行なった。3年間の開発を経て、本学として初めての本格的な教員実績データベースが構築できたことと、その構築に当たって主管として開発企業、学内担当部署との調整等を図り教員の前に提示できた。

3) 広報活動の充実においては、本センターが主管している公開講座推進委員会主導のもと、4附属病院の独自性、自主性を保ちつつ国の私学助成の経常費補助金を利活用して、青戸病院公開健康セミナー2回(6月、11月)、第三病院公開健康セミナー2回(6月、10月)、地域医療連携フォーラム2回(6月、10月)、他地方公共団体やNHK放送博物館等共催で、公開講座を開催支援した。

今年は、看護学科や救急医学講座と、放射線医学講座というように、裾野が広がってきた。

これらの取り組みについては、大学の公開講座ホームページに掲載し、学内から情報の提供を広く呼びかけ情報発信も行なっている。

また、昨年度から取り組みを行なうこととした日本学術振興会が文部科学省の科学研究費補助金にて行われた内容を、中学生・高校生を対象に、研究者がプロデュースする丸1日の体験・実験・講演などを通して、いろいろな疑問に答えるとともに、現在、活躍されている研究者と大学の最先端の研究成果の一端を見る、聞く、触れることで、学術と日常生活との関わりや、科学(学術)がもつ意味に対する理解を深めてもらう機会を提供することを目的としている「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室～KAKENNHI」の下記1事業に組み、昨年度に引き続き好評を得た。

- ① 分子生物学講座(松藤 千弥教授実施担当代表者)では、小中高の参加者36名で、「遺伝子の暗号～DNA30億分の1の違いを調べてみよう」8月2日(木)

平成19年度公開講座実績

公開講座名	開催日	参加人数	主催・場所
〈介護保険セミナー〉マイケアプラン作成と自己負担算出	19年4月21日	市民一般 7名	国領校
神経症（不安障害）と森田療法	5月26日	市民一般 74名	狛江市西河原公民館
困っていませんか？めまい、耳鳴り、目の病気	6月2日	市民一般204名	亀有地区センター
市民に必要な CPR（心肺蘇生）と AED 使用法	6月9日	市民一般 11名	西新橋校
「C型肝炎と肝臓病」	6月9日	市民一般 51名	第三病院
「健康診断結果を日常生活に生かすために！」	6月16日	市民一般 67名	柏病院
「緑内障」「関節の痛みと関節周囲の痛み」	6月23日	市民一般100名	N H K 放送博物館
紫外線と肌の健康～10歳若返り法～	6月30日	市民一般 47名	狛江市西河原公民館
胆石症といわれたら－その予防と対策－	9月15日	市民一般 42名	調布市文化会館たづくり
腎臓病のはじまりから、透析、そして腎移植	9月29日	市民一般110名	西新橋校
最近の感染症をめぐって－ノロウィルス、インフルエンザの流行に備える－	10月6日	市民一般 58名	柏看護専門学校
排尿障害－安易に老化現象としてかたづけられないで－	10月10日	市民一般 71名	調布市文化会館たづくり
知っておきたい薬の知識－ジェネリック薬品と保険料の動向	10月20日	市民一般 29名	第三病院
骨粗鬆症の予防と対策	11月7日	市民一般 92名	調布市文化会館たづくり
ストップ！ザ 肥満！太りすぎは万病のもと	11月9日	市民一般120名	亀有地区センター
がん診療と放射線医	11月10日	市民一般132名	西新橋校
「歯の痛み・あごの痛み」 「耳からおこるめまい症」	20年1月26日	市民一般 53名	
市民に必要な CPR（心肺蘇生）と AED 使用法	2月16日	市民一般 7名	西新橋校
脳卒中、なりやすい人なりにくい人	3月1日	市民一般 44名	第三病院
〈介護保険セミナー〉 知っておきたい在宅医療と介護の話	3月15日	市民一般 32名	国領校
「慢性腎臓病と高血圧」 「脳卒中治療の最前線」	3月15日	市民一般 56名	N H K 放送博物館
「検査値と薬の理解」	3月29日	市民一般 80名	西新橋校

- 4) 特色ある教育・研究の推進においては、特色ある大学教育支援プログラム（特色 GP）の平成17年度採択事業と現代的教育ニーズ支援プログラム（現代 GP）の平成18年度採択事業推進を行なった。

また、平成19年度「地域医療等社会的ニーズに対応した質の高い医療人養成推進プログラム」（医療人 GP）の「テーマ2：臨床研究・研究支援人材の養成」に応募し、「プライマリケア現場の臨床研究者の育成」の課題にて、採択を受けた。

取組概要は下記の通りである。

(1) 取組の概要

医療全体におけるプライマリケア・地域医療の重要性がますます増大している。プライマリケアの医療現場では、大学病院とは質の異なった臨床上の問題が生ずる。例えば、common diseases の診療、在宅医療、地域医療サービス、一次予防、行動科学などである。実際に生じているこれらの問題を臨床研究のテーマとして挙げていくことは、大学病院では困難である。一方、大学病院には臨床研究やその基礎理論となる疫学の知識や技術の蓄積がある。そこで、プライマリケアで直面している問題を解決していくためには、地域のプライマリケアを担う医療者、医療機関と大学病院がネットワークを組み、お互いを補完することによって、直面している問題を妥当で効率的に解決していくシステムの構築が必要である。本取組では大学病院に、プライマリケアを担う医療者を対象に臨床研究の知識や技術を養うコースを構築し、プライマリケア現場での臨床研究の促進を図る。

医療人 GP とともに、平成19年度特色ある大学教育支援プログラム（特色 GP）の教育課程・教育方法の工夫改善を主とする取組以外の取組に応募し、「地域の教育力を活かす医療者教育」の課題にて、採択を受けた。

取組概要は下記の通りである。

東京慈恵会医科大学は、医療者教育を大学（教育研究機関）と大学附属病院（特定機能病院）のみで行うことはできないと考える。医療者教育には、学生が多様な患者さんと出会い、患者さんから学ぶ環境を整備する必要がある。本学はそのために、医療者教育に「地域」を活用することを実践してきた（Community-based Medical Education）。本学は、昭和61年度にわが国で最初に地域開業医へ学生を派遣する家庭医実習を導入し、その後も地域の教育力を活用する取組を続けている（地域中核病院、訪問看護ステーションなど）。しかし、地域の教育力を活かすにはそれを利用するだけではなく、地域医療者へ大学が教育 FD や生涯学習環境をも提供することも重要であると考え。大学の教育資源を積極的に地域医療者に還元することで地域医療実習での学生教育の質の向上が図られる。本取組は本学の地域・大学連携についての提案である。

- ① 卒前教育関係では、GKT（キングス大学）から、Dr. Elaine Gill と Dr. Michael Gill を招聘した。

（平成19年5月）

Dr. Elaine Gill より、キングス大学部でのコミュニケーション教育と Inter-professional Education の概要の説明があった。これらの教育は1年次から開始されること、医学、歯学、看護学、OT/PT、管理栄養士などの学生、合計1学年で1,300人が混在してのグループワークを行なうこと、2年時以降には臨床現場でのチームワークの学習環境を作っていることなどの説明があった。

Dr. Michael Gill からは英国の GP や老年医学の臨床では、医師、看護師だけでなく多くの職種が共同して患者ケアを行っているとの説明があった。なお、両名は本学内での講演だけでなく本学同窓の医療機関をも訪問し、日本の医療関係者とも意見交換を行なった。

- ② 地域医療関係では、GKT（キングス大学）から、Dr. Anne Stephenson を招聘した。
（平成19年10月）

Dr. Anne Stephenson より、英国では primary care は地域の General practitioner (GP) が担い、hospital care には GP の紹介が必要とされる明確な医療システムになっていることなど説明があった。

我が国では現在、地域医療が社会問題として論じられ、そのために数校の医学部の定員増加の政策も講じられている。また、このような情勢の中で、英国での primary care 教育について考えるために開催した。

5) 鏡視下トレーニングシステム

第44回大学法人運営会議（19年3月29日）において、鏡視下トレーニングコース関係業務の主管課を、附属病院管理課・医療安全推進室より、教育センターに移管することが了承され、7月1日付けにて移管を行い、STEP 1、STEP 2 について実施を行なった。

STEP 1

- 1回目：平成19年9月8日（土）受験者数16名：合格者数：11名
- 2回目：平成19年10月27日（土）受験者数20名：合格者数：17名
受講のみ1名（看護師）
- 3回目：平成20年1月26日（土）受験者数12名：合格者数：10名
受講のみ7名（看護師）

STEP 2

- 1回目：平成19年9月29日（土）受験者数8名：合格者数：6名
場 所：高次元医用画像工学研究所（第三病院）
- 2回目：平成19年12月9日（日）受験者数11名：合格者数8名
場 所：ジョンソンエンドジョンソン(株)エチコンエンドサージェリー研究センター
（福島県郡山市）
- 3回目：平成20年2月17日（日）受験者数15名：合格者数12名
場 所：タイコヘルスケアジャパン (株) オートスーチャートレーニングセンター
（静岡県富士宮市）